

令和5年12月15日
(2023年)

保護者のみなさまへ

吹田市立北山田小学校
校長 井上 佐和子

令和5年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度も6年生を対象として「令和5年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と算数に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えております。

対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査の分析

●国語《概要》

- ・本校の国語の正答率について、14問中すべての設問で全国の平均正答率（以下全国値）を上回っている、あるいはやや上回っている。
- ・各設問での無回答率は全国の無回答率を概ね下回っている。

《各領域における成果と課題》

言葉の特徴や使い方に関する事項

- ・すべての設問（5問）において全国値を上回っている、あるいはやや上回っている。
- ・正しい漢字や送り仮名を書く問題では、全国値との差が比較的小さい。

情報の扱い方に関する事項

- ・すべての設問（2問）において全国値を上回っている。

話すこと・聞くこと

- ・すべての設問（3問）において全国値を上回っている。

書くこと

- ・すべての設問（1問）において全国値を上回っている。
- ・根拠となる資料をもとに字数制限などの複数の条件を満たして記述する問題であったが、全国値を上回っているとはいえ、正答率は低い。

読むこと

- ・すべての設問（3問）において全国値を上回っている。

●国語科における成果と今後の改善点について

- ・昨年度に比べ、無回答率は低くなってきています。難解な問題に対しても、粘り強く最後まで考え、自分なりの回答を導き出そうという姿勢が見られるようになりました。
- ・学習指導要領の内容区分「話すこと・聞くこと」にあたる設問での正答率は比較的高く、全国値も上回っていたのは、本校が研究・取り組んでいる「対話を意識した授業」の成果だと考えます。引き続き、自分の考えをまとめ、互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合うことを意図的に授業の中で取り入れていくように努めます。
- ・「図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」といった「書くこと」についての設問は、全国値を上回っているとはいえ、低い正答率でした。全校で授業や朝学習の中で文章を書く機会を増やしていく必要があります。また、子どもの発達段階に応じて、複数の条件を満たして文章を書く経験をさせ、書く力の育成に取り組んでいきます。
- ・漢字の同音異義語に間違い（「意外」と書くべきところを「以外」と誤答）が多くみられました。既習の漢字については積極的に使っていくよう、上記と同じく、普段から文章を書く機会を増やしていきます。

●算数《概要》

- ・本校の算数の正答率について、16問中すべての設問で全国値を上回っている。
- ・各設問での無回答率は全国が無回答率を概ね下回っている。

《各領域における成果と課題》

数と計算

- ・すべての設問（6問）において全国値を上回っている。

図形

- ・すべての設問（4問）において全国値を上回っている。
- ・正三角形の性質の理解を問う問題や形の違う三角形の面積の大小とその理由を記述する問題は、全国値を上回っているとはいえ、正答率は低い。

変化と関係

- ・すべての設問（4問）において全国値を上回っている。

データの活用

- ・すべての設問（3問）において全国値を上回っている。

●算数科における成果と今後の改善点について

- ・算数科の学習では、論理的に考察し、それを説明したり、判断や考えの正しさを説明したりすることが大切であり、平素の学習活動の中で、自分の考えをまとめたり、伝えたりする活動を通して育てていくように学校全体で取り組んでまいります。今後も、児童一人ひとりが主体的に、また、算数の良さに気づける機会を増やす取り組みを続けてまいります。
- ・「切って開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときの角の大きさを書く」問題では、全国値を上回っているとはいえ、低い正答率でした。「正三角形の角の大きさは 60° 」と多くの児童は知っていたと考えられますが、半分に折ったテープを広げて正三角形を作るという日常生活での活用に課題が見られました。算数で得た知識を他教科の学習や実生活に結び付けられるよう、学校生活の中で価値付けていきます。
- ・領域に関わらず、理由を明確にして記述する問題は、全国値を上回っているとはいえ、低い正答率でした。これからも引き続き、性質や構成の知識を活用し、算数用語を正しく使い、筋道を立てて説明したりする授業づくりを行ってまいります。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

児童質問紙では多くの質問項目において全国値とほぼ同等の水準の回答結果になっていました。ここでは本校の回答状況の中で全国値に対して特徴的であったものを取り上げ、今後の教育的課題について考える資料とするため、その結果と課題について考察いたします。

【生活について】

- ・学校の授業時間以外の勉強時間や休日の勉強時間は、全国の平均よりも多い結果となりました。家庭学習や塾などの習い事で、毎日の学習がある程度習慣化している児童が多いようです。
- ・毎日同じくらいの時間に寝起きしている割合は、全国に比べて低く、生活リズムの乱れが気になります。
- ・1日当たりの読書量を問われる設問では、昨年度に比べて全体的に読書量が増えてはいますが、半数近くの児童が「10分から30分より少ない」や「全くしない」と回答しています。一方「あなたの家にはどれくらい本がありますか」の問いには半数以上の児童が100冊以上あると答えています。ご家庭にある本の冊数と読書量には相関関係がありそうですが、学校でも図書室の本をさらに充実させ、読書の習慣を低学年から身に付けさせる必要があります。

【自分自身について・学校生活について】

- ・「自分には、良いところがあると思いますか」では昨年度と同様に肯定的な回答が全国値を上回り、自己肯定感の高さがうかがえました。一般的に自己肯定感の高さは学習に対する意欲との相関関係も見られることから、今後も学習環境や生活環境の充実が重要であると考えます。
- ・「学校に行くのは楽しいと思いますか」「先生は、あなたのよいところを認めてくれますか」「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれると思いますか」

か」という質問は、どれも肯定的な回答が全国値を上回っていました。これからも子どもたちが安心して楽しく過ごせる学級・学校づくりを進めてまいります。

- ・子どもたちがとらえる授業での ICT 機器の使用頻度は、全国値よりも高かった反面、「学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」や「学校の授業時間以外に、1 日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどの ICT 機器を、勉強のために使っていますか」という質問について、肯定的な回答や使用時間は全国値よりもやや低くなりました。一人1台端末をもっと効果的に授業中の学習や家庭学習で活用するために、引き続き研究をしていく必要があります。
- ・いじめはどんな場合でもいけないことだと肯定的に回答する児童が、昨年度と同様に高い割合を占めました。今後もより一層意識を高めていくために、道徳の授業やいじめ予防授業等を充実させ、いじめを許さない心を育てていきたいと考えています。

3 今後の取り組み

国語、算数ともに「授業の内容はよく分かりますか」や「大切だと思いますか」「学習したことは将来役に立つと思いますか」の質問は概ね全国値を上回っていましたが、「国語(算数)の勉強は好きですか」という質問については、全国値よりやや低い結果となりました。このことから、子どもたち自らが問いをもって、より主体的に子どもたち同士で学び合えるしかけを授業に取り入れて、各教科の特性に触れさせていけるような授業づくりに努めます。また、知識・理解を深めるだけでなく、授業を通して何ができるようになったのか、自らの成長を実感し、学んだことが日常生活とつながっていることを理解できるような授業づくりに取り組んでまいります。互いを助け合うことができる児童の育成については、学校での体験活動や行事を通して実感できるように努めてまいります。

これからも本校の教育活動にご理解、ご協力をお願いいたします。